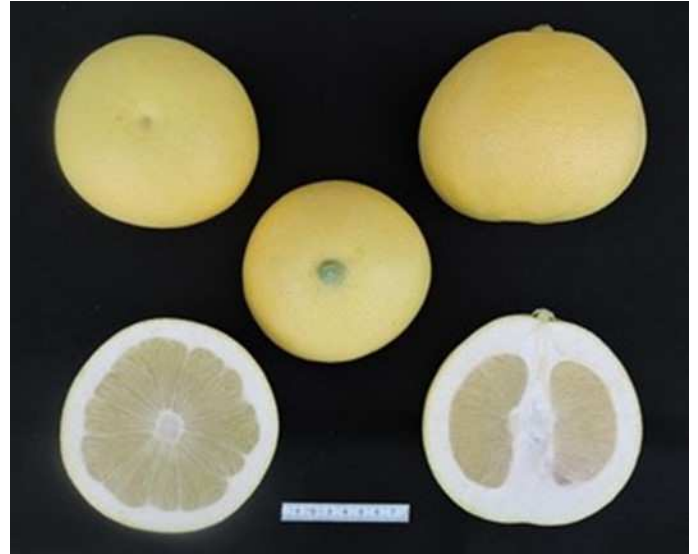


カンキツ新品種「ボナルーナ」



由来

- 「ボナルーナ」は、「土佐文旦」に「水晶文旦」（染色体倍化处理した花粉を使用）を交配して育成した三倍体品種です。
- 京都大学、高知県、広島県が共同で育成し、令和2年12月27日に品種登録出願を行い、令和5年3月6日に品種登録（第29571号）となりました。
- 品種名は、丸く黄白色の滑らかな果皮から「美味しい月」を連想し、これをイタリア語風に置き換えて命名しました。

特性

- 「土佐文旦」に類似した爽やかな風味でさっぱりとした食味です。
- 果形は球形で、果皮は黄色で滑らかです。果実重は450～550gです。
- 剥皮性は、「土佐文旦」と同様にやや難で、ナイフで切り目を入れて剥きます。
- 完全種子は、「土佐文旦」に比べて極めて少ないです。
- じょうのう膜が剥きやすく食べやすい品種です。
- 育成地での3月中旬の調査では、糖度は10.4度、酸度は1.22%です。
- 樹勢は強く直立性で、とげは短くて少なく、着果は良好です。



果実特性

品種名	果実重 (g)	果皮厚 (mm)	果肉歩合 ^z (%)	完全 種子数	糖度 (°Brix)	酸度 (%)	糖酸比 ^y
ボナルーナ	484	13.0	64.7	0.2	10.4	1.22	8.5
土佐文旦	391	8.3	70.8	37.6	12.1	1.19	10.2

栽培地点は広島総研農技C果樹研究部（東広島市安芸津町）で2品種を同一園地で栽培
2019年3月8日に収穫して同年3月14日に分析

^z (果実重-果皮重) ÷ 果実重 ^y 糖度 ÷ 酸度

* 本研究の一部は生研支援センターのイノベーション創出強化研究推進事業（JPJ007097）にて実施しました。